

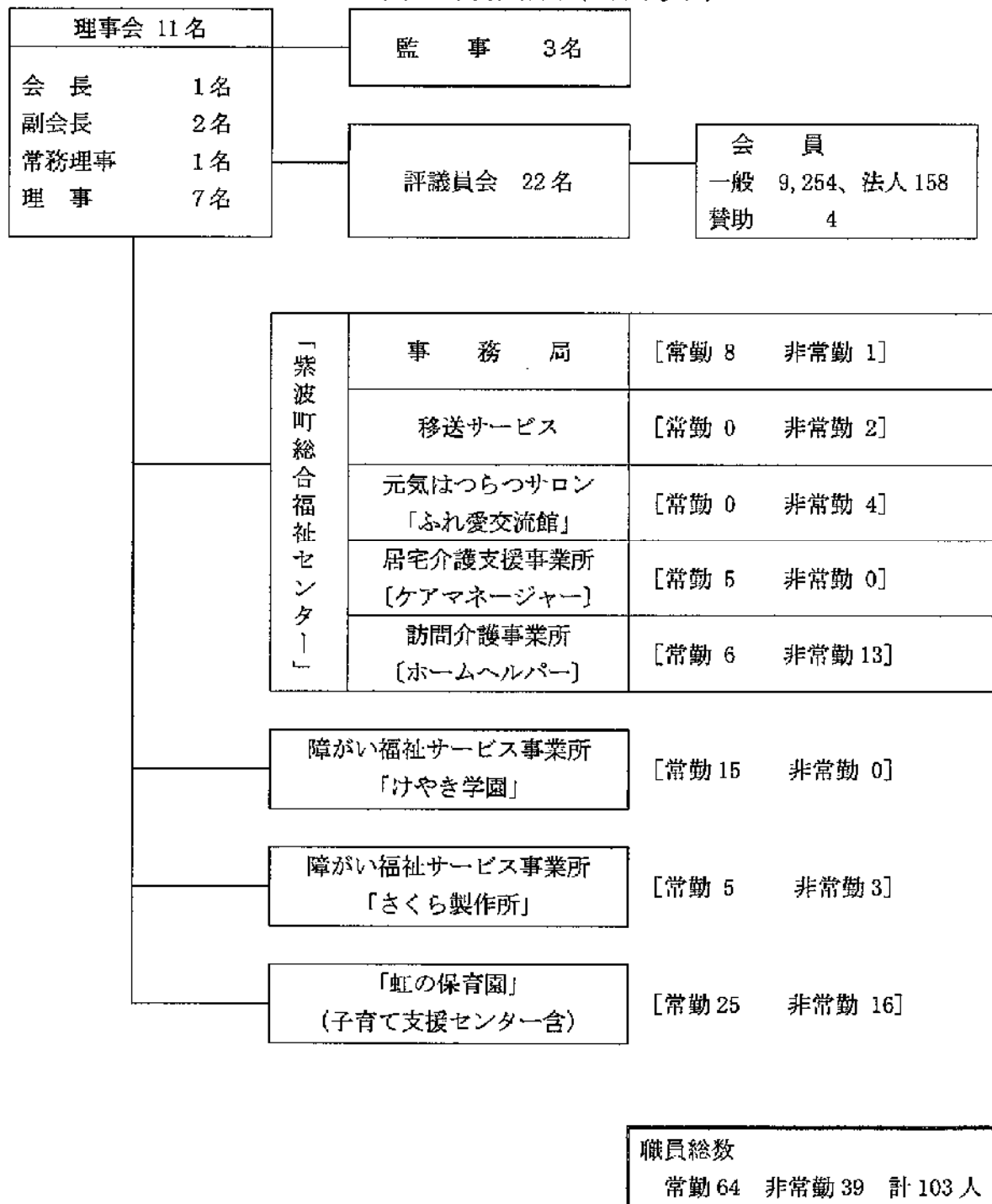
令和6年度

社会福祉法人紫波町社会福祉協議会 事業報告書

第1 法人運営

1 組織

令和6年度組織図（3月末現在）



2 会 費

(1) 会 費

・個人会費 1,000 円 ・法人、賛助会員 3,000 円

(2) 実 績

・個人会費 9,253,500 円 (前年度比-97,800 円)
 ・法人会費 654,000 円 (158 法人) (前年度比-40,000 円 (-6 法人))
 ・賛助会費 75,000 円 (4 団体) (前年度同額)
 ・合 計 9,982,500 円 (前年度比-137,800 円)

第2 福祉基金保有高等

前期末残高	当期取崩額	当期積立額	当期末残高
57,167,452 円	0 円	226,325 円 〔 寄付金 225,180 利息配当等 1,145 〕	57,393,777 円

福祉事業への寄付金 609,209 円

第3 会議・監査会の開催状況

1 理事会 理事定数 11 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第1回	5月23日	8 (3)	・令和5年度事業報告、決算 ・定款の一部変更 ・令和6年度補正予算(第1号) ・評議員候補者の推薦 ・評議員選任・解任委員会の招集 ・役員候補者の推薦 ・評議員選任・解任委員の選任 ・定時評議員会の招集
第2回	12月13日	10 (3)	・たすけあい金庫運営規程の廃止 ・歳末たすけあい義援金の配分
第3回	3月12日	9 (3)	・諸規程一部改正 ・令和6年度補正予算(第2号) ・役員等賠償責任保険の契約 ・令和7年度事業計画、予算 ・評議員会の招集 ・事務局長、施設等の長の選任 ・常務理事の選任

2 評議員会 定数 22 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第 1 回 定時評 議員会	6 月 7 日	17 (1)	・ 令和 5 年度事業報告、決算 ・ 令和 6 年度補正予算(第 1 号) ・ 定款の一部変更 ・ 役員の選任
第 2 回	3 月 21 日	15	・ 令和 6 年度補正予算(第 2 号) ・ 令和 7 年度事業計画、予算

3 評議員選任・解任委員会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 28 日	・ 評議員の選任

4 監査会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 10 日	・ 令和 5 年度 1 月～3 月事業内容 ・ 令和 5 年度 1 月～3 月定例監査 ・ 令和 5 年度決算監査
第 2 回	7 月 23 日	・ 令和 6 年度 4 月～6 月事業内容 ・ 令和 6 年度 4 月～6 月定例監査
第 3 回	10 月 24 日	・ 令和 6 年度 7 月～9 月事業内容 ・ 令和 6 年度 7 月～9 月定例監査
第 4 回	1 月 27 日	・ 令和 6 年度 10 月～12 月事業内容 ・ 令和 6 年度 10 月～12 月定例監査

5 部会

会議名	開催月日	内 容
福祉事業部会	4 月 19 日	配食サービスについて 金婚を祝う会について
福祉事業部会	12 月 6 日	金婚を祝う会について たすけあい金庫貸付事業について 高齢者ふれあい交流事業について 地域福祉活動創出応援助成金事業について

6 地域福祉団体との懇談会等

会議名	開催月日	出席者	内 容
町内社会福祉法人連携ネットワーク推進協議会	4月30日	17	・事業と決算の報告 ・共同実施連携事業と予算
たんぽぽ食堂開催に向けた打合せ	5月15日から6回	延34	・こども食堂を地域の方々とともに安心感がある居場所の提供を目指して中央公民館で開催
地域福祉活動計画策定委員会開催	2月20日	21	・計画の進捗状況及び次年度に取り組むためのアイデアについて

7 BCP計画策定に伴う推進

(1) 紫波町社会福祉協議会BCP訓練の開催

- ①日 時：令和6年11月2日（土）午前7時～9時
- ②場 所：紫波町総合福祉センター
- ③参加者：36名
- ④内 容：情報伝達訓練、職員参集訓練、初動対応訓練、災害対策本部設置訓練
食事提供訓練、備蓄品保管場所確認訓練
- ⑤協 力：(株) アウトレジャー様、(株) 寿広様

第4 企画広報

1 広 報

(1) 社会福祉協議会広報紙「社協だより」の発刊

社会福祉協議会事業の紹介のほか、福祉情報を提供しました。

- ・発行回数 6回（全世帯と法人会員に配布）

(2) SNSの活用

社会福祉協議会の事業予定、報告その他福祉情報を多世代に向け、インターネットを活用し発信しました。

- ① Facebook（フェイスブック） 令和3年6月から運用 フォロワー数 245名
- ② YouTube（ユーチューブ） 令和4年5月から運用 チャンネル登録者数 3名
視聴回数 205回
- ③ Instagram（インスタグラム） 令和5年3月から運用 フォロワー数 618名
投稿数 131件

(3) 「福祉声のおたより」の発行

朗読ボランティア「銀の鈴」の協力を得て、広報紙をCDに録音し、視覚障害者へ提供しました。

- ・録音項目 町広報、町議会報、社協広報他町内関連文書
- ・会 員 7名
- ・利 用 者 9名

2 金婚を祝う会

長年苦楽を共に歩んできた夫婦の結婚 50 周年を祝し「金婚を祝う会」を開催しました。

- ・期 日 11 月 22 日（金） ・場 所 紫波グリーンホテル
- ・参加者 2 組、4 名 ・記念写真 ・唄

3 町内の社会福祉法人の連携による共同実施推進の取組 【継続事業、法人提出】

(1) 買い物等支援事業

- ・日 時 令和 6 年 4 月～7 年 3 月 10:00～12:00 第一水曜日 12 回実施
- ・車 両 5 台（紫波会・志和大樹会・爽生会は各 1 台、社協 2 台）
- ・利用状況 登録者 25 名 利用実績 延べ 243 名
利用者は町中央部から離れた地域の方が利用しています。
- ・実施内容 盛岡南ショッピングセンターで買い物（50 分程度）

(2) 就労準備支援ボランティア事業

実績無

4 たんぽぽ食堂及びフードパントリーの開催

ひとり親家庭等の子どもを対象に、地域の方々とともに安心感がある居場所を提供することで、地域全体で子どもたちを見守る・育てるきっかけになることを目指して開催しました。

- ・開催日等 4 月～3 月 12 回 ・会 場 紫波中央公民館
- ・内 容 県主催の紫波町学習支援利用者と家族へ食事や食材を提供
- ・参加者 主に日詰地区 延べ 227 世帯 571 名
- ・財 源 助成金及び寄付金、協力金 699,800 円
- ・協力者 民生児童委員等 延べ 93 名

5 福祉用具の貸出

(1) 車椅子貸出（保有 15 台）

歩行困難者の日常生活支援のため、6 カ月を限度に車椅子を無料で貸し出しました。

- ・貸出延数 43 台

(2) 福祉教育用具貸出

学校の福祉教育推進のため、福祉用具を無料で貸し出しました。

- ・貸出延数 点字器（保有 28 セット） 2 回 紫波東学園、赤石みちくさ学童

第 5 地域福祉活動の推進

（相談、困窮、資金）

1 無料相談事業「ふれあい相談所」

住民の抱えている課題解決に援助し、協力するため、無料相談所を開設しました。

- ・実施日 人権擁護委員毎月 1 回、弁護士毎月 1 回
- ・場 所 福祉センター団体室、ボランティア室、和室
- ・相談員 人権擁護委員 7 名、弁護士 1 名

・件数内訳

生 計	年 金	職 業・生 業	住 宅	家 族	結 婚
1	1	0	2	6	0
離 婚	健康・衛生	医 療	精神衛生	人権・法律	財 産
8	0	0	0	32	17
事 故	児童・母子保健	教育・青少年	心身障害者	母子・父子福祉	高齢者福祉
0	0	0	2	0	0
苦 情	地域福祉権利 擁護事業関連	その他			合 計
0	1	0			70

2 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）生活困窮相談支援事業【継続事業 町補助】

岩手県社会福祉協議会と連携し相談窓口対応を行い、継続的支援を要する場合には、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を示し、複合的な生活課題に対して町を含めた関係機関と連携し、個人や世帯への支援を行いました。

主な支援内容は、相談、同行支援（病院、ハローワーク等）、食糧支援等です。

（1）相談内容

収入・生活費、住まい、仕事、ライフライン、債務、家計管理等です。

（2）ふれあいカフェの実施

町民の困りごとや悩みごとの相談だけでなく、誰でも気軽に集まることができる居場所として『ふれあいカフェ』を開催しました。

・日 時 令和6年4月～7年3月 10：00～15：00 12回開催

・場 所 町総合福祉センター2階和室 ・参 加 者 延べ164名

（3）ふれあいミーティングの開催

個人や世帯に対し継続的に支援を行うため、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等について、町を含めた関係機関と連携し情報共有を図りました。

・令和元年4月から 毎月1回開催 町総合福祉センター

・町、県社協、町社協（CSW、SC）、障害者基幹相談支援センター（矢巾町）、図書館司書、コミュニティーナース等

3 生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）【継続事業 町委託 650千円】

町では、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業として、生活支援コーディネーターを配置し、資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取組のマッチングを行い、地域で暮らす人を支援する人やサービスをつなぐ取組を行いました。

（1）実施内容

いこいの家や住民主体のサロンに出かけ、日常の暮らしぶりをお聴きし、地域で支え合い、たすけ合いを実践している皆さんの活動をまとめました。

『まちのあつまりっこ』を作成し、紫波中央駅待合施設や公民館に配りました。

（2）町主催シンポジウムへ生活支援コーディネーターとして参画

～みんなが主役！見つけよう地域のつながり～お宝事例発表会

- ・日 時 2月15日(土) 13:30～15:30
- ・場 所 紫波町情報交流館2階大スタジオ ・参加者 82名
- ・講 師 特定非営利法人 全国コミュニティーライフサポートセンター
地域支え合い推進センター 参事 橋本泰典 氏

4 歳末たすけあい運動

低所得世帯や母子・父子世帯や常時介護を要する方に、義援金を配分しました。

- ・運動実施期間 10月～12月 ・募金実績額 4,879,512円
- ・配 分 額 3,469,000円
- ・配 分 内 訳

区 分		世帯・人員	単 価	金 額
要保護世帯	高齢者・母子等世帯	257世帯	11,000円	2,827,000円
常時介護を要する個人	寝たきり・認知高齢者、重度心身障害者	107人	6,000円	642,000円

5 日常生活自立支援事業の支援

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などで日常生活上の判断能力が不十分な方でも適切に福祉サービスが利用できるように、福祉サービスの利用援助や日常生活に必要な金銭管理をお手伝いしました。

- ・利用者数 17名(3月末現在)
- ・生活支援員(紫波町担当) 3名(週1～2回訪問)

6 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金(県社協委託事業)

資金名		件数	貸付総額	貸付限度額
当期決定貸付総額		6件	2,089,000円	
内 訳	緊急小口資金	2件	115,000円	100,000円
	福祉資金	0件	0円	50万円～580万円、対象経費による
	総合支援資金	0件	0円	単身15万円、2人～20万円
	つなぎ資金	0件	0円	必要最小限
	教育支援資金	4件	1,974,000円	

※前年度 5件 2,110,000円

(2) たすけあい金庫

緊急出費を要し、援護の必要がある方を対象として資金貸付を実施しました。

- ・利用限度額 50,000円 ・当期利用状況 0件

(高齢者、障がい者)

7 高齢者ふれあい交流会

65 歳以上の一人暮らし老人及び共に 75 歳以上の二人暮らし世帯を対象に、次の事業を実施しました。

(1) 日帰り温泉旅行

- ・実施日 令和 6 年 10 月 28 日～30 日 (3 日間)
- ・実施場所 ラ・フランス温泉館 ホテル湯楽々
- ・参加者 対象者 89 名 各地区民生委員 10 名 ・負担金 1 人 2,500 円

(2) 配食サービス 毎週金曜日に昼食弁当をボランティアが配布しました。

- ・利用者 29 名 (3 月末現在) ・利用者負担 1 食 300 円
- ・実施回数 51 回 ・配食総数 1,732 食 ・受託料 467,470 円
- ・利用者負担 519,600 円 ・事業費 1,182,589 円 ・事業者支払 961,479 円

8 高齢者安否確認システムの利用推進

【県社協事業】

独居高齢者を対象に、電話による安否確認システムの利用を推進しました。

- ・利用実績 1 件

9 移送サービス

車椅子利用者等で一般の交通機関の利用が困難である高齢者や障がい者 (町認定者) を対象として、病院や福祉施設等へ移送する有償のサービスを実施しました。

- ・利用登録者数 64 名 ・利用延べ回数 625 回
- ・運転手 3 名 ・専用車両 3 台

10 地域交流イベント「ふれあいフェスタ 2024」

【継続：共同募金 471,057 円】

障がい者と健常者との相互理解、障がい者に関する正しい知識の普及と啓発、文化活動を通じた交流、障がい者の自立と社会参加の促進を目的に開催しました。

- ・実施日 9 月 20 日 (金) ～21 日 (土)
- ・場 所 オガールプラザ内「紫波町情報交流館」及び東広場
- ・展示物 障がいのある方が製作した 43 点の作品、町内福祉団体や事業所の紹介パネル、町内福祉事業所の利用者と紫波総合高校福祉健康系列の生徒とのコラボアート展示
- ・イベント 個人団体によるステージ発表と視線入力の講演実演、e-スポーツ講演 13 団体によるふれあい屋台コーナーの開催、車椅子の乗車と点字の打ち込み体験、来場者からの感想を寄せてもらう「ふれ愛の木」の展示
- ・表 彰 ふれあいフェスタ賞 2 名、ふれあい賞 4 名

11 三障がい者スポーツ交流会

障がい者の体力維持や交流を目的に、ニュースポーツを行いました。

- ・開催日 令和 6 年 12 月 7 日 (土) ・場所 紫波町多目的施設 ・参加者 29 名

12 キャップハンディ体験等福祉出前講座

町内小中学校の福祉学習の際に、職員が車いす、白杖の体験の出前講座を行いました。

- ・出前講座 車いす・白杖体験 5校 日詰、古館（2）、西の杜、紫波東
二中
- ・福祉講座 金濱朋美氏 3回 西の杜、紫波東、赤石みちくさ学童

13 知的障がい者（児）お楽しみ会事業

知的障がい者（児）の家庭に引きこもりがちになる方の健康増進を図るとともに社会適応を養い、また保護者の交流の場を設けることによって、障がい者（児）福祉の向上と啓蒙を図ることを目的に多人数でのお出かけを実施しました。

- ・実施日 令和6年9月14日（土）
- ・実施場所 宮城県登米市
- ・参加親子 14組

（助成金）

14 地域福祉活動創出応援助成

【継続事業 会費 870千円】

地域福祉推進事業として、地域課題、困りごとを受け止め、助け合い、支え合える事業への助成支援を行いました。

- ・書類審査：6月14日（金）
- ・書類審査団体数：7団体
- ・審査会：6月24日（月）
- ・審査団体数：7団体
- ・活動報告会：2月27日（木）
- ・出席団体数：6団体
- ・助成団体数：6団体（870,997円）

15 高齢者サロン「いこいの家」助成事業

町内のひとり暮らし老人や老夫婦世帯の孤独感解消や健康保持を目的に、ボランティアが実施する高齢者サロン事業「いこいの家」に、補助金を交付しました。

- ・交付額 1回3,400円（財源内訳 町2,400円、社協1,000円）
- ・地区別開催状況

日 詰	古 館	水 分	志 和	赤 石
14ヶ所 57回	6ヶ所 33回	7ヶ所 24回	13ヶ所 78回	15ヶ所 30回
彦 部	佐比内	赤 沢	長 岡	合 計
3ヶ所 8回	7ヶ所 15回	8ヶ所 22回	6ヶ所 18回	79ヶ所 285回

16 食とのつながり支援事業助成

【新規事業 会費 288千円】

食支援や学習支援、居場所支援を通じて、地域に密着して行われる多様な生活課題活動を実践する団体へ助成支援を行いました。

- ・助成団体数：3団体（288,306円）

17 各種福祉団体助成

【775千円】

（1）事務を受託している団体（6団体）

民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、身体障がい者福祉協会、

母子寡婦福祉協会、更生保護女性の会、手をつなぐ親の会

(2) 子育て支援 【72 千円】

就学前児童の子育てひろば（子育てサロン）を開催しているボランティアグループ

3 団体へ活動費の助成を行いました。 ・活動助成金 3 ひろば総額 72,000 円

(3) 行政区長協議会等への支援 (4 団体) 【240 千円】

18 小地域福祉 除雪事業費助成金交付事業 【77,240 円】

町内 2 団体に助成金を交付しました。

第 6 災害支援等ボランティア事業

1 被災地へ義援金支援

令和 6 年能登半島地震災害に対し、団体等からの義援金受入れと町内 23 ヶ所に募金箱を設置しました。83 日間の募集期間を経、総額 1,296,046 円を珠洲市社会福祉協議会に送金しました。

2 BCP 事業継続計画に基づく取組（参集訓練等）

3 災害ボランティアセンター確立（資材確保等）

4 配食ボランティア（関連 第 5-7-(2)）

65 歳以上一人暮らしや、概ね 75 歳以上の夫婦世帯におかずを届けながら見守りの安否確認も行いながら、年間 51 回昼食配食のボランティア活動を行いました。

・利用者 32 名（日詰 5、古館 3、水分 3、赤石 6、佐比内 9、長岡 6） 3 月末現在

・ボランティア登録人数 29 名

5 高齢者サロン「いこいの家」ボランティア

各地区の「いこいの家」運営に、ボランティアとして下記の実績がありました。

・世話人延べ人数 1,267 名 ・開催回数 285 回 ・利用者総数 3,970 名

6 ボランティア保険加入状況（合計 2,130 名は前年比+1,050 名）

区分	団体加入	個人加入	加入者計
活動保険基本タイプ	18 団体 324 名	4 名	328 名
活動保険天災タイプ	1 団体 7 名	3 名	10 名
行事保険タイプ	14 団体（実 5 団体）1,432 名	0 名	1,432 名
送迎サービス補償	1 団体 360 名	0 名	360 名
計	34 団体（実 25 団体）2,123 名	7 名	2,130 名

7 傾聴ボランティア活動支援

8 フードバンクへの協力

町内に設置された食品回収ポストへの協力食材を、これまでに 7 回フードバンク岩手（盛岡市）へ届けました。

第7 共同募金事業

1 赤い羽根共同募金運動の推進

・運動実施期間 10月～12月 ・募金実績額 6,076,389円

2 福祉支援事業助成（1件5万円限度）

・決定団体数 10団体 ・助成金額 454,000円

3 社会福祉協議会が行う事業へ助成

・事業数 4事業 ふれあいフェスタ、いこいの家、社協だより、障害者団体等活動
・助成金額 4,328,261円

第8 職員研修

1 紫波町社会福祉協議会職員研修

- (1) 実施日時 4月9日（火）18時30分から ・参加者 77名
・内 容 紫波町地域福祉計画について 谷地館事務局長
令和6年度事業方針について 施設長3名、遠藤管理者
- (2) 実施日時 11月14日（木）18時から ・参加者 54名
・内 容 ハラスメント、カスタマーハラスメントから家族介護支援を考える
岩手産業保健総合支援センター産業保健相談員 神田永子氏
- (3) 実施日時 3月18日（火）18時から ・参加者 70名
・内 容 自分も相手も大切にするピアサポートという考え方
特定非営利活動法人ココカラいわて代表 上野康隆氏
本会でのカスタマーハラスメントに対する基本指針について
紫波町社会福祉協議会けやき学園 鷹背施設長

第9 在宅支援介護

※事業実施報告は、別紙のとおり

第10 虹の保育園

1 公私連携型保育園「虹の保育園」

※事業実施報告は、別紙のとおり

2 地域子育て支援センター

※事業実施報告は、別紙のとおり

第11 障害福祉サービス事業所

1 障がい福祉サービス事業所「けやき学園」

※事業実施報告は、別紙のとおり

2 障がい福祉サービス事業所「さくら製作所」

※事業実施報告は、別紙のとおり

令和6年度

在宅支援介護 事業報告書

1 介護事業の状況

介護が必要な高齢者及び障がい者が、住み慣れた自宅で安心して暮らせるように、利用者自身が個々に持っている力を引き出し、その力を支え生かしながら各種の支援・介護を行いました。

2 居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

介護保険において要介護認定を受けた方の介護サービス計画（ケアプラン）の作成、見直し及び介護サービスに関わる連絡・調整等を実施しました。

- ・利用者数（3月実績） 140名 要支援 13名含む。（前年度150名）
- ・介護支援専門員数 5名（前年度5名）
- ・総収入額 27,523,267円（前年度比-254,507円）
- ・令和6年度に3年に1回の報酬改定が行われ0.61%報酬単価が上がりました。

3 訪問介護事業（ホームヘルパー派遣）

要介護認定者（1～5）と要支援者（1・2）に加え、それに準じた方（事業対象者）に対しても訪問介護サービスを提供しております。

平成31年4月から、勤務シフト作成ソフトとスマホを活用したことで、勤務日程と勤務内容報告等を紙媒体から電子媒体保存となり業務効率が改善されました。

・訪問介護利用実績

（単位：人、回、時間、千円）

年 度 区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
実利用者数	事業対象者	1	1	0	0	0	0
	要支援1	1	1	1	1	1	0
	要支援2	6	12	8	9	6	6
	要介護1	38	28	32	28	18	21
	要介護2	24	21	21	18	20	18
	要介護3	17	12	12	14	15	11
	要介護4	4	6	5	6	1	1
	要介護5	2	2	4	2	2	2
	計	93	83	83	78	63	59
派遣回数	身体介護	5,185	6,669	5,984	5,568	4,711	4,666
	生活援助	1,298	1,169	868	512	499	362
	身体・生活	3,007	2,485	2,231	2,219	2,260	1,820
	介護予防	0	0	0	0	0	0
	現行相当	510	739	534	463	441	380
	計	10,000	11,062	9,617	8,762	7,861	7,228

年 度		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
派遣 時間	身体介護	4,060	4,914	4,103	3,881	3,149	3,124
	生活援助	1,366	1,191	908	533	405	304
	身体・生活	4,147	3,332	2,069	2,054	2,985	2,429
	介護予防	0	0	0	0	0	0
	現行相当	555	554	518	362	344	300
	計	10,128	9,991	7,598	6,830	6,883	6,157
収入額 (介護報酬)		39,279	41,463	35,322	32,947	29,721	27,026

- ・総収入額 27,026,675 円（前年度比 -2,694,397 円）
- ・平成 31 年 4 月から特定事業所加算（10%）円を含みます。
- ・介護予防サービスは、平成 29 年度から現行相当サービスとなりました。
- ・令和 6 年度に 3 年に 1 回の報酬改定が行われ 1 回のサービスにつき 20～120 円報酬単価が下がりました。

4 障害者居宅介護事業（ヘルパー派遣）

障害者総合支援法における利用者へ居宅介護サービスを提供しました。

- ・利用実績 (単位：人、回、時間、千円)

年 度		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
区 分	派遣対象者数	17	19	16	16	18	13
	派遣回数	2,756	2,658	2,112	2,139	2,044	2,264
	派遣時間	2,206	2,069	1,511	1,569	1,606	1,738
	自立支援費収入	7,178	7,236	5,004	5,135	4,777	5,587

- ・総収入額 5,587,830 円（前年度比 +810,812 円）
- ・令和元年 10 月から特定事業所加算（10%）を含みます。

5 障害者外出介助事業（ガイドヘルパー派遣）

【継続事業 町委託】

町認定の障がい者を対象として、ガイドヘルパーを派遣し、外出介助を実施しました。

- ・利用者数 5 名（前年度 5 名） ・派遣回数 232 回（前年度 240 回）
- ・派遣時間 386 時間（前年度 359 時間）
- ・総収入額 547,850 円（前年度比 +10,500 円）

6 基準緩和訪問型サービス（ホームヘルパー派遣）

介護保険要支援に準じ、町認定者チェックリストで判定された高齢者を対象に、週 1 回ホームヘルパーを派遣してきました。平成 29 年から基準緩和型サービスとなり、平成 30 年 7 月からは上限が週 2 回となっています。

・利用実績

(単位：人、回、時間)

年度 区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
派遣対象	23	25	21	25	18	20
派遣回数	1,238	1,377	1,172	1,217	1,111	996
派遣時間	922	1,047	879	913	833	719

・総収入額 1,786,796 円 (前年比+613,791 円) 派遣対象者は年度末の実績

・事業名 29 年度から基準緩和訪問型サービス、28 年度までは「生活指導員派遣事業」

7 緩和型訪問かいご者養成研修

【継続事業 町委託】

学んで実践！！介護講座

・日 時 12 月 17 日 (火) ～18 日 (水) ・会 場 オガール

・主 催 紫波町 ・受講者 6 名

・内 容 コミュニケーション技術、事故防止・緊急対応、生活支援技術

講師は紫波町職員、数カ所の介護サービス事業所。社協からはヘルパー 2 名で対応しました。(受講者から雇用候補者名簿への登録 4 名)

8 元気はつらつサロン「ふれ愛交流館」

【継続事業 町委託】

介護保険要支援者とそれに準じた高齢者(町認定者)を対象に実施しました。

・開設日数 148 日 (水曜日～金曜日) (前年度 145 日)

・開設場所 福祉センター

・登録者数 22 名 (3 月末現在) (前年度 23 名)

・延べ利用者数 1,007 名 (前年度比 +72 名)

・実施内容 健康管理、趣味創作、給食、季節行事他

・総収入額 4,510,860 円 (前年度比 +203,870 円)

[illegible][illegible]

令和6年度は、子どもたちの明るい表情や楽しそうな声、園庭を駆け回る元気な姿、そして、保護者の方の理解と協力、地域の皆様の温かい声は、保育園にとって何よりもの支えとなりました。

1 令和6年度 年間行事経過報告

15

	26日	保育参観（5歳児）
		幼保小の学びをつなぐ研修会
	30日	紫波第三中学校職場体験学習3年生（1名）
	31日	子ども・子育て会議
8月	1日	交通安全教室、祖父母参観（3歳児）
	2日	紫波ブロック保育協議会看護師研修
	5日	幼保小連携会議
	8日	イングリッシュタイム（4、5歳児）
	19日	保育実習生（盛岡大学短期大学）2名10日間
	23日	令和7年度就学予定児童ことばの検査
	30日	引き渡し訓練
9月	2日	保育実習生（盛岡大学短期大学）1名10日間
		保育実習生（盛岡医療福祉スポーツ専門学校）1名10日間
	4日	幼児教育連絡会
	5日	紫波第一中学校職場体験学習5名
	6日	保育参観（4歳児）
	9日	志和八幡祭り山車引き
	11日	紫波ブロック施設長研修
	12日	イングリッシュタイム（4、5歳児）
	17日	お月見団子作り（3歳児）
	20日	稲刈り見学（5歳児）
	21日	ふれあいフェスタ（4歳児）
	28日	運動会
10月	1日	交通安全教室、祖父母参観（4歳児）
	4日	保育参観（3歳児）
	9日	社会福祉施設等給食施設立入検査
	10日	イングリッシュタイム（4、5歳児）
	11日	岩手県保育指導監査受検
	15日	七五三宮参り（4、5歳児）
	17日	子どもの健康づくり担当者研修会
	20日	産業まつり（5歳児）
	21日	後期 内科健診（0、1、2歳児）
	24日	カレークッキング（5歳児）
		後期 歯科健診（全園児）
	28日	後期 内科健診（3、4、5歳児）
	29日	紫波ブロック副園長・主任研修
11月	1日	紫波ブロック調理師・用務員研修
		園内研修①
	2日	紫波町社会福祉協議会 BCP 訓練
	6日	紫波ブロック保育士研修
	7日	イングリッシュタイム（4、5歳児）
	8日	ぬか燗炊飯クッキング（5歳児）
	11日	さつまいも蒸しパンクッキング（4歳児）
	12日	西の杜小学校交流会（1年生）
	13日	幼児教育連絡会
	22日	令和7年度保育士採用試験（実技）
	25日	西の杜小学校交流会（2年生）
	30日	発表会（全園児）

12月	2日 6日 7日 12日 13日 18日 20日 25日	令和7年度保育士採用試験（面接） 出張幼児ことばの教室 イングリッシュタイム（4、5歳児） 自立支援協議会避難訓練 園内研修② 紫波町教育研究所架け橋期のカリキュラム作成委員会 巡回訪問 クリスマス会
1月	14日 15日 16日 18日 31日	ホームカミングデー 小正月（4、5歳児） 志和公民館 幼児教育連絡会 イングリッシュタイム（4、5歳児） 親子陶芸教室（5歳児） 園内研修③
2月	3日 6日 14日 28日	節分 イングリッシュタイム（4、5歳児） 味噌作り（5歳児） お別れ会
3月	3日 6日 10日 13日 14日 15日 17日 24日 25日	ひなまつり イングリッシュタイム（4、5歳児） 岩手県社会福祉協議会・保育協議会総会 幼児教育連絡会 修了式 卒園式 新入児入園説明会（19日まで） 保育ボランティア2名（25日まで） 新年度職員会議

2 保育業務実施状況

子ども子育て支援新制度において、保護者の保育希望理由、希望必要量により、市町村の給付認定（1～3号）を受け、利用をすることとなっている。当園は、「保育所」である為、2号認定（3～5歳）、3号認定（0～2歳）の保育を実施しました。

（1）児童数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	12	18	18	20	26	26	120
4月	4（8）	16（19）	19（23）	25（27）	25（28）	27（24）	116（129）
10月	9（9）	18（18）	20（23）	25（25）	25（28）	27（24）	124（127）
3月	11（10）	18（17）	20（23）	25（24）	25（27）	27（24）	126（126）

（ ）内は令和5年度児童数

（2）年間入退園児童数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	16	2	2	1	1	1	1	0	1	1	0	0	26
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 職員数

令和7年3月現在

園長	1名（常勤）
副園長	1名（常勤）
保育士	27名（常勤19名、非常勤8名）
調理員（栄養士除く）	5名（常勤2名、非常勤3名）
看護師	1名（非勤勤）
栄養士	1名（常勤）
事務員	1名（常勤）
その他	子育て支援員3名（非常勤）、保育補助1名（非常勤）
計	41名

3 保育内容

【保育理念】

自然豊かな地域の温かい環境に守られ、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉の増進を支えます。

一人一人の子どもの幸せのために保護者及び家庭、地域社会と手を結び、すべてにおいて気くばり、心くばり、目くばりの「心」ある保育の増進に努めます。

平成16年4月1日

保育理念、保育目標に基づき、保育全体計画、保育年間計画を作成し、個々の発達を大切にした保育を実践しました。

- ① “遊ぶ力”の獲得を目指す取り組みを実施
- ② 人として生きる力の基礎を培う取り組みを実施
- ③ 集団の中で個々が育ち合う取り組みを実施
- ④ 絵本による豊かな心情作りを実施
- ⑤ 畑での野菜の栽培を実施
- ⑥ 稲作体験・味噌作り体験の実施

4 特別保育実施状況

(1) 延長保育

在園児を対象に月曜日から土曜日まで開設時間を延長し、保育を実施しました。

- ・時 間 午後6時～7時
- ・利用者 日単位利用登録延べ人数27名、利用延べ人数566名（年間）
月単位利用登録延べ人数18名、利用延べ人数541名（年間）

(2) 一時保育

満1歳以上の町内在住幼児を対象に、月曜日から土曜日まで時間単位での預かり保育を実施しました。

- ・時 間 午前8時～午後6時

年 度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
利用人数	149	232	16	108	23	92	62

・利用者 62 名

(3) 休日保育

満1歳以上の在園児を対象に日曜日、祝日、年末に保育を実施しました。

・時 間 午前8時30分～午後5時

・利用者 7名

年 度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
利用人数	168	124	64	51	76	24	7

5 防災訓練実施状況

災害発生時に備え、職員、在園児、在園児保護者、子育て支援センター利用者、一時保育利用児の全員を対象に訓練を実施し、災害時の対応について啓発活動を行いました。

・定期訓練 毎月1回（消防署指導2回）・土曜日訓練 年3回（6月1日、8日、15日）

・定期救命講習の受講（岩手日赤支部）

月日 時間	設定	子どもの動き	避難場所	職員の訓練や学習内容
4/23 10:00	指導	・合図を聞いて保育者の所に集まる。	遊戯室	・避難経路や役割分担、非常持ち出し物を確認する。 ・人数確認、消火器設置場所確認
5/28 10:00	地震	・放送や合図を聞いて保育者の所に集まる。 ・保育者の指示に従い、頭を守る。	保育室	・保育室の環境を日頃から整える。 ・避難経路を確保する。 ・日頃から避難経路や役割分担、非常持ち出し物を確認しておく。
5/29 10:00	熊対策	・熊が出た時の身の守り方を知る。	遊戯室 (幼児部)	・熊についての知識、対応を学ぶ。 (紫波町環境課職員を講師に)
6/25 10:00	水害	・放送をよく聞き慌てずに避難する。	活動場所 ↓ 遊戯室	・近隣の道路が浸水した状態を想定し、水害時の避難方法を確認する。
7/23 9:45	地震 ↓ 火災	①押さない ②走らない ③しゃべらない ④戻らない の約束を身につける (お・は・し・も)	第一避難所 消防署員 立ち合い	・非常持ち出し用品の点検 ・避難所への速やかな誘導方法の確認 ・消火器の使用方法を知る。 ・通報訓練（火災発生） ・消火栓使用法について、指導、訓練を受ける。
7/31 18:00	地震	・揺れがおさまるまでは安全な場所に身	子育て 支援センター	・リーダーは避難指示を出す。 ・延長保育時で、少人数の職員である時、

		を寄せ、保育者の指示で次の行動に移る ・担任ではない職員でも話を聞いて避難する。 ・おんぶされたり抱いてもらったりして避難する。	↓ 玄関 ホール	子どもの安全を第一に考え行動に移す。 ・全体の安全確認、状況の把握 園長への報告、指示を仰ぐ。 ・連絡が取れない時は職員の的確な判断が必要となる。 ・目印の旗、緊急連絡名簿ファイル、出席名簿、拡声器、笛、携帯電話、避難持ち出し用具等の確認
8/30 16:00	地震による引き渡し訓練	・放送を聞き、保育者のそばに集まる。	遊戯室	・強い地震や園舎倒壊の恐れを想定し、子ども達を安全に避難誘導する。 ・保護者へのメール配信をし、安全に保護者へ子どもを引き渡す。 ・発電機の準備
9/30 17:00	火災	・保育者の指示を聞いて落ち着いて避難する。	第二避難所	・夕方の時間帯の避難方法の確認をする。 ・子どもの人数を把握する。 ・避難路が確保されているか確認する。
10/30 午前	火災 給食室	・保育者の指示に従い避難する。	第一避難所	・職員にも予告なしの訓練 ・火事の怖さを不安にならない程度に知らせ、避難することの必要性を知らせる。
11/26 9:45	地震	・近くにいる保育者の側に集まる。 ・講話 ・DVDによる学習	保育室 ↓ 遊戯室 消防署員 立ち合い	・避難路は確保されているか、日常的に点検しておく。 ・通報訓練（けが人→救急） ・消火訓練
12/4 午前 予告なし	不審者対策	・保育者の側に集まる。指示に従い行動する。	保育室内 外 生活安全課に依頼	・不審者の行動に対する適切な対処方を知る。 ・落ち着いた対応で園児を不安から守ると共に、安全確保をどの様に行うか検討しておく。 ・職員間、関係機関への連絡方法の確認をする。 ・警察署の方より、職員向けに防犯についての講話を聴く。
1/29 14:45	地震	・落ち着いて指示を聞き避難する。	保育室 デッキ まで	・冬場の避難路は常に確保されているか確認する。（日常的に点検） ・午睡時の避難方法を職員で確認し合う。
2/26 11:45	火災 給食室	・放送機器が使えないとき時の避難を経験する。 ・保育者の指示を聞き避難する。	保育室 ↓ 第一避難所	・避難路の確保がなされているか確認 ・消火栓前の除雪は日頃から確認する。 ・放送機器故障の場合の園内への周知方法の確認

				・給食職員は、火事を知らせる。初期消火の方法を知る。
3/18 10:00	指 導	・安全に避難する方法、自分の命を守る大切さを確認し、みんなで1年の反省を行う。	遊戯室	・1年間の反省を次年度計画へ活かすようにする。

6 給食実施状況

(1) 給食実施結果

厚生労働省が示す食事摂取基準に基づき乳幼児にとって適切な給与栄養量を確保できるよう、子どもの発育、発達状況、家庭環境、栄養状態を考慮しながら年間の食育計画を立案しました。また0歳児については、入園時点での月齢を基準とし、家庭と連絡を取りながら個々の成長に合わせた離乳食を進めました。

(2) 食育啓発活動

- ①献立表の配布の実施
- ②給食サンプルの展示
- ③誕生会昼食会の実施
- ④食事マナーの習得
- ⑤地産地消の推進
- ⑥調理の取り組み
- ⑦アレルギー除去食の提供
- ⑧歯科指導の実施

(3) 衛生管理

- ①給食安全管理に基づいた安全な調理の実施
- ②職員細菌検査の実施

4月（全職員）毎月（給食従事者、0歳児担任）ノロウイルス（給食従事者）

③感染症対策の実施

全園児、全職員、自宅での検温、体調観察、保育室内の消毒を行いました。

④健康に関する情報（保健だより）の発行を行いました。

7 保護者との連携

(1) 父母の会

園行事の開催について、父母の会会長と相談し、各行事を実施しました。

(2) 保護者

個別面談を実施し、お子さんの保育園での様子や家庭での様子、心配事や保育園への希望などいつもの送迎では中々できない話をする機会を作りました。

8 地域交流

(1) 異世代間交流

虹の保育園地域子育て支援センター高齢者クラブ（そよかぜクラブ）と2，3歳児で伝

統行事（小正月）を行いました。

（２） 関係団体との交流

①近隣地区老人クラブさんに園舎中庭や野菜畑の整備を行っていただきました。

②志和公民館にて、地域の方々と伝統行事（小正月）に参加しました。

（３） 普及、啓発活動

①園行事の様子を社協広報に掲載しました。

②保育の様子、行事等を園だよりで伝えました。

③保育の様子（ドキュメンテーション）を掲示し、保育の様子を伝える試みを行いました。

④健康及び感染症に関する保健だよりを発行しました。

⑤給食だより、献立表を発行しました。

9 卒園児就学予定小学校との連携

①児童の就学予定校との申し送りを行いました。（町内小学校４校）

②保育所児童保育要録（平成 29 年全部改正、平成 30 年 4 月施行保育所指針に則る）を児童の就学校へ送付しました。

10 諸会議の開催及び参加

（１） 職員会議

①職員全体会議（毎月 1 回）

②給食担当者会議、乳児部、幼児部リーダー会議

③乳幼児部連絡会議の開催（隔週）

（２） 関係機関の会議への参加

①紫波町福祉相談窓口連携会議

②紫波町幼児教育連絡会

11 実習生、職場体験学習、ボランティアの受け入れ

保育実習生 3 校 4 名

職場体験学習 2 校 11 名

ボランティア 2 名

12 職員研修の実施

（１） 園内研修の実施（職員全体研修）年 3 回

①幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿の説明を受け、グループで討議し保育の質を高め合う

②映像を観て 10 の姿にあてはめ、グループで討議し保育の質を高め合う

③食育の研修の伝講、不審者訓練の振り返り、10 の姿について討議

（２） 保育士キャリアアップ研修の受講

・障がい児保育（1 名） ・食育アレルギー（2 名） ・幼児保育（1 名）

・保健衛生（3 名） 保護者支援・子育て支援（2 名） 乳児保育（1 名）

(3) その他外部研修

- ①オガール保育園園内研修（子どもの姿を可視化する文章表現を学ぶ）
- ②いわて保育園看護職研修会
- ③令和6年度就学前教育管理職研修講座
- ④紫波町幼児教育研修会「古館保育所 公開保育」
- ⑤感染性胃腸炎対策研修会
- ⑥幼保小の学びをつなぐ研修会
- ⑦紫波ブロック保育協議会看護師研修
- ⑧紫波ブロック保育協議会栄養士研修
- ⑨子どもの健康づくり担当者研修
- ⑩紫波ブロック保育協議会調理師・用務員研修

13 苦情・相談の受付

- (1) 苦情…0件
- (2) 相談…育児相談5件

14 事故・ヒヤリハット・救急搬送報告

(1) 事故…6件

対象児童	月日・時刻	内 容	園の対応
0歳児 男児	12月9日 10:25	・遊戯室のベンチに向かって歩いていた本児が転倒。ベンチの角に右まぶた上部をぶつけ出血する。 ・出血箇所を確認。傷が深く出血がじわじわと続く。	・傷口をガーゼで圧迫。保護者へ連絡し状況を伝える。受診を依頼するが、保護者は受診が難しいとの事。園長、看護師が眼科受診する事を伝え了承を得る。 ・受診時には、傷口の出血止まる。眼球異常なし、右眼まぶたの傷洗浄しテープで保護。受診状況を保護者に連絡をする。

他5件

(2) ヒヤリハット報告…15件

場所	月日・時刻	状 況	対応・改善対策
0歳児 保育室	5月14日 9:30	保育室にせんべいのかげらのような物が落ちていた。 ※保育園で、提供している物とは異なる。	・登園時、子どもの視診を行う際、服の汚れ等も気を付けて見るようにする。 ・保育室は日々の清掃で清潔に保つと共に、活動中にも異物等が無いか確認をする。

他11件

(3) 救急搬送…3件

対象児童	月日・時刻	状 況	対応・改善対策
5歳児 男児	7月4日 9:13	登園後、園庭で走って遊んでいた男児が、園庭の中央付近にてうつ伏せで倒れていた。目は閉じ、手足が突っ張っている様に見られた。 口から泡の様なものが少量出ていた。	・倒れているのを発見し、周囲の職員へ応援要請をする。うつ伏せから仰向けにし、全身の状態を観察。 ・医務室へ搬送する。母への連絡と119番通報をする。熱中症を疑い冷却。救急隊が来るまで全身観察を続ける。 ・医療機関で母と合流。排便がうまくコントロール出来ない事での症状の可能性有。内服薬処方される。 ※同じような症状が続く場合は検査を検討とのこと。

他2件

令和6年度

地域子育て支援センター 事業報告書

1 子育て親子の交流の提供と交流の促進

就学前の在宅の親子を対象に、子育て不安の解消や保護者同士の交流の場を提供しました。

(1) 赤ちゃん広場

- ・実施日 毎週火曜日 9:30～12:00
第2、4木曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳未満の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども134名、母133名、父9名、祖母3名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごすことを中心に母親同士の交流の場を図る。
保育士による手あそび、親子のスキンシップ、触れ合い遊び
絵本の読み聞かせ、簡単な製作活動の実施

(2) びよびよ広場

- ・実施日 毎月木曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳から3歳くらいまでの就園前の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども23名、母20名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごしながら子ども同士でのあそびを楽しむとともに親同士の交流を図る。
保育士による手あそびや歌あそび、乳幼児向けの体操や絵本や紙芝居の読み聞かせ、簡単な製作活動の実施

(3) キッズガーデン

- ・実施日 毎月第4月曜日 10:00～12:00
- ・対象 0歳から就園前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども39名、母30名
- ・内容 保育士とともに親子で園庭や室内での製作遊び

(4) 親子の広場

- ・実施日 毎週 月曜～金曜日 10:00～12:00
月曜～金曜日 13:00～17:00
毎週 土曜日 10:00～15:00
- ・対象 0歳から就学前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども269名、母216名、父9名、祖母1名
- ・内容 親子でゆっくりとあそぶことができ、時間内であれば自由に立ち寄れる場所として開放しました。

2 子育て等に関する相談・援助の実施

- ・実施日 毎週月～金曜日 9:00～17:00

毎週土曜日 9:00～15:00

・対象 子育て中の親またはその関係者

・内容 来園または電話による相談

園の看護師、栄養士、重点的な支援が必要と判断された親子（家庭）については町内支援センター、保健師、役場担当課との連携と協働をはかりながら対応しました。

・相談実績

相談内容	件数	相談内容	件数
基本的な生活習慣	0	行政・保育所・幼稚園	2
発達・発育	6	一時保育	0
しつけ育児	2	その他	1
医療的相談	0	合 計	11

3 地域の子育て関連情報の提供

子育て中の親子が必要とする身近な地域の子育てについて様々な情報を提供しました。

・しわっせ、子育て支援ひろば、保健センター間との情報の交換・連絡・共有を行い、広場開設時に利用者に提供しました。

・研修・経験などで得られた専門知識を広場開設時に提供しました。

・センター通信を発行しました（センター予定表・子育て情報・食育情報を各1回／月）。

地域の方々にもセンターの情報を知っていただくためにセンター予定表を配布しました。（志和公民館、水分公民館、社会福祉協議会等）

4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

・広場開設時における絵本の読み聞かせ、手遊び、製作等の実施 7回／月

5 地域支援活動の実施

子育て支援ひろば（地域のボランティアグループ「にこにこひろば」と合同）

・実施回 11回／年

・対象 0歳から就園前の子どもとその保護者

・内容 にこにこひろばへ出向き、親子に遊びや絵本の読み聞かせを提供
活動内容により、参加者の子どもの託児

6 世代間交流

（1）高齢者ボランティア講座【そよかぜクラブ】の開催

支援センターを拠点とし、地域の高齢者と広場参加者、在園児との交流を実施しました。

・実施回 毎週金曜日 9:30～12:00

製作や園行事への参加、畑での野菜栽培

・対象者 保育園近隣在住の高齢者

- ・内 容 支援センターの畑作り、乳児用エプロン作り、運動会のメダル作り、卒園児へのコサージュづくり、在園児との行事参加や交流（みずき団子づくり）

- ・登録者数 7名（延べ参加者数 152名）

（2）卒園児との交流（ホームカミングデー）

卒園後の子どもたちの見守りの試みとして計画をたて、実施しました。

- ・実 施 回 令和7年1月14日（火）
- ・内 容 保育園で卒園児自身が作った味噌の配布
- ・参加者数 子ども23名

令和6年度

けやき学園 事業報告書

障がいのある方への生産活動の場の提供と生活介護事業を実施し、利用者個々の能力を引き出すことを目標に、利用者お一人おひとりの特性と適性に応じて次のような事業を実施しました。

1 事業所運営に関すること

(1) 利用登録者数について

- ・利用定員 40名（就労継続支援B型事業34名、生活介護事業6名）
- ・当期末登録者数 40名（B型32名、生活介護8名。男性20名、女性20名）
（紫波町36名、花巻市4名）
- ・平均年齢 43.5歳（男性44.0歳、女性43.1歳）

(2) 開所日数

- ・年間開所日数 239日（前年度と同）
- ・月平均開所日数 19.8日

(3) 利用者数

- ・年間延べ利用者数 8,329名（前年度比-151名）
- ・1日の平均利用者数 34.9名（前年度比-0.6名）

(4) 職員体制について

- ・常勤職員 15名

(5) 事業稼働について

- ・生産活動の機会を提供する就労継続事業、訓練作業や情操活動等を取り入れた生活介護事業において、利用者個々の適性と特性に合わせた支援に努めました。

(6) 運営費（自立支援給付費）収入 82,285,565円（前年度比+4,042,235円）

【対予算達成率96.3%】

2 利用者支援に関すること

(1) 個別支援計画の作成および記録の整備について

- ・ご本人の意向を尊重し、支援計画書を前後期2回作成し、適正な支援に努めました。
- ・利用者個々の日常に関する記録（ケース記録）に不足がないよう努めました。

(2) 各種委員会と関連会議の開催について

- ・虐待防止委員会並びに身体拘束適正化委員会を開催し、関連する研修を行いました。
- ・災害対策並びに感染症対策に関する事業継続計画（BCP）を作成しました。
- ・感染症対策に関する所内研修を実施し、利用者向けに手洗い講習会を行いました。

(3) 生産活動において、個々に応じた適正作業に結びつけられるよう、また、見通しを示すことや称賛等を加えながらの支援に努め、下記の結果となりました。

印刷科	4,496,499円	手拭い、タオル、Tシャツ、ジャンパー等の印刷 （前年度比+660,768円）
-----	------------	---

障子襖科	2,055,740 円	障子、ふすま及び網戸の張り替え (前年度比-121,880 円)
受託科	1,524,270 円	調味料容器のキャップ締め、菓子袋のシール貼り、部品組立、廃プラスチックリサイクル、花植えプランター他 (前年度比-96,556 円) 参考) キャップ回収量 3,089 kg (前年度 3,112 kg)
計	8,076,509 円	(前年度比+442,332 円) 【対予算達成率 101.6%】

(3) 利用者への工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 5,360,410 円 (前年度比+379,760 円)
【対予算達成率 96.6%】
- ・一人当たり月平均支給額 12,818 円 (前年度比+1,120 円)

(4) 生活介護事業について

- ・ウォーキングや創作活動を中心に意欲的に活動参加できるよう、家庭連絡及び職員間で連携を図りながら実施しました。

(5) 給食提供と健康支援について

- ・体重測定と嗜好調査を行い、健康支援と昼食メニューに反映させました。
- ・国内及び地元産の食材使用を基本に、刻み食やおかゆ食、アレルギー除去、病人食など(毎食対応 13 名)、体調と病状に合わせた食事提供を行いました。
- ・食事介助を要する方への個別対応や誤嚥防止対策、座席間隔の確保等のコロナ感染防止対策を継続しました。
- ・年間食事提供日数 237 日、総給食数食、一日平均提供食数 49.2 食、利用者希望メニュー 75 回、郷土料理 47 回を提供しました。
- ・嘱託医による健康診断の実施と、家庭対応が難しい方の通院付添を行う等、病状把握に努めました。

(6) 行事、クラブ活動等について

- ①経験拡大を目的とした活動(公共交通機関の利用や体験)をグループ単位で行い、クラブ活動(軽運動と音楽)を講師と連絡しながら工夫を加えて計画実施しました。
- ②インターネット閲覧の機会を適宜設定しました。
- ③花壇の花植えや合間のウォーキング、施設内装飾づくりなどを適宜取り入れました。

(7) 本人活動や自治会活動への支援については、日常での改善点などを会議や係活動を通して意向を取り入れるよう努めました。

3 その他の事業・活動について

- (1) 利用者とそのご家族から寄せられた要望及び相談においては、職員間の共有と迅速な対処に努めました。
- (2) 体験利用の受け入れ 1 名(他事業所利用者)
授業実習 10 名 3 校(高校、専門学校、大学)

令和6年度

さくら製作所 事業報告書

障がいのある方が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会・生産活動その他活動の機会を提供し、知識及び能力の向上に必要な訓練等を適切かつ効果的に行うことを目的に、各種事業を実施した。

1 事業所運営に関すること

- (1) 利用登録者数について 定員 20 名
- ①当期末 登録者数 19 名（男性 5 名、女性 14 名）
（紫波町 14 名、矢巾町 4 名、花巻市 1 名）
- ・平均年齢 47.7 歳（前年度比-0.4 歳）
- ②年間の異動状況（新規利用者 1 名・就労及び他施設者数 2 名・退所者数 1 名）
- (2) 事業所開設日数
- ①年間延べ開所日数 239 日（前年度比-1 日）
- ②月平均開所日数 19 日（前年度比-1 日）
- (3) 利用者数
- ①年間延べ利用者数 3,662 名（前年度比-223 名）
- ②1 日の平均利用者数 15.4 名（前年度比-0.8 名）
- (4) 職員体制
- ①常勤職員 5 名
- ②パート職員 3 名
- (5) 運営管理について
- ①関連機関との連絡調整会議等参加（支援会議等） 41 回
- ②県内外研修会参加 2 回
- ③避難・防火訓練実施 2 回
- (6) 運営費（自立支援給付費）収入 31,991,930 円（前年度比+415,200 円）

2 利用者支援に関すること

- (1) 個別支援計画（日常生活・就労支援他）の作成
定期面談を実施し、個人ごとに本人の意向を重視した支援計画の作成に努めました。
- (2) 生産活動において、個々の能力に応じた適性作業に結びつけられるよう支援に努め、下記の結果となりました。

区 分	総売上高	作 業 内 容
受注作業部	2,158,355 円	返礼品箱詰め作業、調味料のミニボトルのキャップ、工業関係部品の組立、フルーツキャップ他 （前年度比+253,134 円）

就労促進部	2,265,120 円	メール便の配達 (前年度比+266,472 円)
計	4,423,475 円	(前年度比+519,606 円)

(3) 利用者工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 3,687,795 円 (前年度比+24,560 円)
- ・一人当たり月平均支給額 19,955 円 (前年度比 +1,111 円)

(4) 一般就労の推進

就労希望者に対して、ハローワークや就労支援に関わる関係機関と連携し、就労に向けた支援を実施した。

- ①令和6年度の一般就労者数 0名

(5) 嘱託医による健康診断の実施

①実施回数

- ・健康診断 2回
- ・予防接種を集団で実施
- ・インフルエンザワクチン 1回

(6) 行事・余暇活動

①行事

2回

- ・日帰り旅行（北上方面）・リフレッシュ教室を実施（参加）した。

②施設内行事

5回

- ・季節行事（花見会・そば打ち・クリスマス会・新年会・成人を祝う会等）として食事を実施した。

3 その他の事業・活動について

(1) 送迎サービス

- ①送迎サービス利用者数（当期末現在） 15名

(2) 苦情解決

当事者等からの苦情（不安や悩みを含む）があった場合、適切に対応し今後の事業所運営に反映させる体制に努めた。

- ①苦情受付件数 0件

- ②その他相談受付件数（コミュニケーションに関する事） 3件

(3) 事業所利用体験実習、視察、学生体験実習等の受入

- ①年間事業所見学者数（当事者他） 10名

- ②年間事業所施設体験・実習者数（当事者） 4名